

令和7年度 第2回 香南市営バス検討委員会 議事録

- 日 時：令和8年2月12日（木）14時30分～15時30分
- 場 所：香南市役所本庁 201・202 会議室
- 出席委員：別府誠（香南市副市長）
大谷修二（香南市高齢者クラブ連合会） 森尾美紀（香南市観光協会）
村井洋子（住民代表） 吉田雅彦（住民代表）
山中節子（住民代表） 久武美紀（住民代表）
- 欠席委員：小松健一（香南市社会福祉協議会） 清光怜子（住民代表）
- オブザーバー：
古川歩昂（高知運輸支局）
都築敏夫（香南市高齢者介護課） 横田義輝（香南市学校教育課（代理））
- 事務局等：土居貴之（えこまち研究室）
小川哲弘、竹下洋隆、松下麻衣（地域支援課）
-

1. 開会

委員9名のうち7名が出席しており、会議が成立していることを報告

委員長挨拶

本日はお忙しいところ香南市営バス検討委員会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。

本日の会議も前回と同様に皆様からのご意見をもとに、香南市公共交通の再編案をよりよいものとしていくということが主眼でございますので、ぜひ積極的にご発言をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

まず事務局の方からニーズ調査の結果や再編案の現状を説明させていただき、その後にご意見をいただければと考えております。よろしくお願いいたします。

2. 説明事項

再編に向けた調査の実施

○事務局より説明

○別府委員長

アンケートの回答率は、小学校が10%、中学校が3.3%と低いがこのようなものか。

→事務局より回答

教育委員会と相談し学校に負担をかけない方法として依頼文書のみ学校から配布していたが、QRコード読み込みによる回答フォームからの回答とした。回答率としては低いですが、回答数は一定数取れており事務局としては想定より多くの方に回答していただいたと考えている。

○土居氏

QRコードでは回答数は少なくなる傾向がある。今までの私の経験では紙ベースであれば8割を超えてくる。回答いただいているのはそこに思いのある方の意見である。

○吉田委員

中学生は雨でもカッパを着て自転車に乗るので利用者は少ないのではないか。よほどの荒天でない限り中学生がバスを利用することはないのではないか。

→事務局より回答

アンケートの対象が市内小中学校のため、私立等の学校に通っている子どもは一定市営バスを利用しているかもしれない。

3. 協議事項

(1) 再編方針

○事務局より説明

※資料の内容のほか、赤岡地区・吉川地区の新たな運行予定経路については、現在の運行事業者より運行に係る安全性について懸念が示されていること、それに伴い運行事業者と事務局で当該経路上の現場確認を実施予定であることを補足説明

○村井委員

赤岡・吉川の運行予定経路について、危険な箇所が見られるとはどこのことか。

→事務局より回答

吉川については、吉川市民館の西の交差点の北東の家の壁がせり出しており、マイクロバスで通る場合、接触のリスクがあるため、この交差点を直進して旧吉川庁舎辺りに出てくるルートがいいのではないかと聞いている。

赤岡については、クランク型の交差点や東西と南北どちらの道が優先か明確でない交差点について現場確認をすることとなっている。

また、警察に事故の発生状況についても情報をもらっているので現場で確認する。

○別府委員長

吉川の方は旧吉川庁舎前のバス停を少し動かすことになるのか。

→事務局より回答

吉川・横井線は東に戻ってくるので旧吉川庁舎前で問題ないが、吉川・下井線は西に行くため別にバス停を構える必要がでてくる。運行可能となった場合の検討としては、春野赤岡線に出てくる手前のJAの辺りに広いスペースがあり、かつ、どちらの路線でも統一したバス停とできるため適当ではないかと考えている。

○村井委員

旧吉川庁舎の解体後には歩道が整備されるとのことで、駐車場に関しては改善される動きがある。JAの辺りは広がっているのでここへ乗降場所を取れば安全であるし、南の方の住民が多いので乗降場所としては望ましいと思う。県道の歩道が拡幅されたら現在の乗降場所でもいいが、いずれにせよ安全に運行できるよう乗務員さんとすり合わせをお願いする。

○別府委員長

運行事業者と相談、現場確認をしてまた報告させていただく。

○村井委員

アンケートを読むと、若い人の意見は便数を増やしてほしいとか夕方遅くの便がほしいという要望があったがどのように改善を考えているか。

→事務局より回答

便数としては同規模の自治体に比べ多いと認識をしているところ、便数を増やすことは乗務員不足ということもあり難しい。遅い時間帯の便の追加については、朝の早い時間帯はスクールバスがあるので、遅い時間帯を追加すれば運行時間が長くなり、必然的に乗務員の拘束時間も長くなる。路線によっては2交代制を取ることであり、乗務員の増員が必要になるので、こちらも現実的には難しいと考えている。

○別府委員長

自衛隊から金曜日の遅い時間帯のニーズ等があるが、乗務員不足であり増便するのであればどこかを減便することになる。民間も含め県全体としても同じような状況で、乗務員がいないので路線が減っていく状態である。

○村井委員

それを補うのに乗合タクシーの導入は考えられないか。

→事務局より回答

乗合タクシーについては、今回の再編で2箇所追加する予定になっており、公共交通計画に掲げている部分として計画的に実施している。利用者の多い路線については市営バスでの運行を継続し、利用者の少なくなってきた路線については乗合タクシーを検討していくことになるが、そこは市内全体の状況を見ながら計画的に実施していきたい。また、タクシー事業者も無尽蔵に運行できるわけではないので、タクシー事業者に相談しながらになる。

○別府委員長

流れとしてはおっしゃるような乗合タクシーに変えていくことになる。

○村井委員

アンケートを見ると、都会で行われていることをそのまま地方にも当てはめてもらいたいというところがある。そうなれば便利だがそこまでは難しいと思うので、そういうところに対してはどう対応するのか。

○別府委員長

都会では、利用者が多い時間帯で収益を上げることができていると思うが、香南市ではそこまで多いことがないのでなかなか難しいところである。

○村井委員

公共のバスの役割ではないかもしれないが、例えば年に1回くらい市内の遺跡めぐり号みたいなツアーをして、それを夜須編とか香我美編とかというようにやってはどうか。それから羽尾へ行って大釜荘でおいしいものが食べられるというような観光のような、少し高いがそれでも利用者にはお得といったかたちで稼げる方策を考えてはどうか。

○別府委員長

一義的には市民の足ですが、プラスアルファで市のいろんな魅力発見ツアーみたいなものでバスが活用できたらということですね。こちらの部署ではないかもしれないですが、また観光協会とも連携しながら検討する。

○山中委員

のいち東部循環線は富家通で折り返しているがこれを山北クリニック前まで延伸してもらいたい。トイレもあり良心市で買い物もできる。乗務員さんも利用者が買い物をしている間に休めるので10分か20分くらい停車することはできないか。

○土居氏

山北クリニック前まで延伸することは可能ですが、そこで10分停まることは路線の途中であるためできない。山北クリニック前は他の路線も多く運行しているので、それを使っていただけたら山北の方も活性化してくると思う。

○山中委員

野市郵便局に行くのにのいち駅で乗り換えないといけないが、のいち東部循環線が山北クリニック前まで運行してもらえたらそこから山北郵便局に行くことで事が足る。それと山北クリニックに行くときは、野市中央病院で降りてのいち・かがみ線のバスを待って乗り換えないといけないので、富家通からもう1区間、山北クリニック前までのいち東部循環線を延伸していただけないか。

○土居氏

3年前の再編調査のときに山北クリニック前までは要らなくなったと記憶している。

山北クリニック前までの延伸は可能だが、懸念されるのは、例えば中山田や兎田から野市中央病院に行きたい方にとっては遠回りになる。のいち東部循環線を利用している方のニーズ調査が必要と思われる。

○別府委員長

再編に向けて予定がタイトではあるので、ニーズ調査の検討含め事務局で預からせていただく。

○森尾委員

吉川・下井線、吉川・横井線については、危険個所の点検を来週行うとのことであったが、できれば今日の会議の前に実施していただきその結果を提示していただきたかった。

→事務局より回答

できればこの会議の前に実施したかったが、現場確認の参加者の日程調整ができず間に合わなかった。

○別府委員長

この会議を再度開催させていただき、報告させてもらう予定である。

○久武委員

第1回の会議のときに、乗降に時間のかかる方のために乗り継ぎ時間の間隔をもう少し長くしては、との話があったので再編時に調整をお願いする。

アンケートについては、まじめに関心を持って答えてくれている保護者や子どももいる。例えば社会科の授業や市内観光といったかたちで子どもたちが利用する機会を作るとなると観光協会との話し合いとなるのか。

○別府委員長

村井委員から話のあった市内の遺跡を巡るようなものであれば、生涯学習課になる。社会見学等の学校の授業の一環であれば学校教育課、イベントや観光であれば観光協会というかたちになり、公共のバスとは分けて対応することとなる。

○久武委員

例えば、子どもたちとのいち動物公園に行くとして、どの便で行ってどの便で帰ればいいのかといったことは、学校で教えたり、地域で取り組んだりすべきことになるのか。

○土居氏

時刻表等を見ながら子ども自身に行程を考えてもらうことはとても有意義な学習になる。そういったことができる公共交通の環境が香南市には十分あると思う。

○久武委員

特定の場所にお出かけするのに子ども向けにバスの時刻表を作ってあげるとかといったことは地域の役割になってくる。せっかくアンケートでいろいろ書いてくれているので、そこを實現してより子どもたちが公共交通を利用しやすいように考えていきたい。

○土居氏

保護者の皆さんもバスに乗ったことがない方が多い。そこを認識した上で、市営バスが将来の自分たちの乗り物であるという認識のもとに勉強していただいて、それを地域の子もたちと共有していただきたい。香南市は活用できる便数が十分にある。分からないことがあれば行政に相談して一緒にやっていければいいのではないか。

○吉田委員

各地区のまちづくりで計画を立てたいけどバスのことで相談したいとなった場合は、地域支援課の方に依頼すれば出前講座として来てもらえる。

依頼があつたらではなく押しかけ出前講座というかたちも必要ではないか。

○森尾委員

アンケートを見ると、イベント等でも結構市営バスを使ってもらっていてありがたいことである。ただ、子どもにはバス停がわかりにくいということがあるのではないか。例えば、のいち動物公園の行きはこのマーク、帰りはこのマークのようなキッズ表示のようなものをしてもらえば、子ども同士でも安全に遊びに行けるようになると思うので、何か工夫していただけたらもっと利用しやすくなるのではないか。

広報でも、地域からのいち動物公園に行くにはこのルートのようなコーナーがあってもいいかもしれない。

高校生以下等無料については、アンケートで初めて知ったという人もいたので、改めて周知にもなったと思うので、もっと利用してもらうためにはわかりやすい表示をすとか知ってもらうことが大事ではないかと思う。

○久武委員

お金がかかることでもあり公共交通としてできる範囲も限られると思うが、知ってもらおうという意味では今流行っているポケふたのような目印というか目を引くものがバス停にあればいいのではないか。

○村井委員

夜間の運行は少ないが冬場は5時頃には暗くなるので、バス停に太陽光発電のついた照明があればいいのではないかと思います。お金のかかることなので、まずはお金を稼げるようなバスの運行ができてからのことではある。

(2) 使用料の定額化について

○事務局より説明

○大谷委員

乗り換える度に100円追加されるということでもいいか。

→事務局より回答

乗り換えなく直通で繋がっている路線もあるが、そこに関してはバスの乗り換えがなくても途中で路線が変わる場合は2路線分の200円になる。

○吉田委員

乗合タクシーが100円であれば利用者はかなり増えるのではないか。

→事務局より回答

100円以上の運賃区間は人口的に少ないため利用者も少ないのが現状である。そのため、利用者が大きく増える予測はしていないが、中山間地域の方々の利便性が向上することで利用者は増えると考えている。

○大谷委員

ここまで安くなると、徴収の手間や必要経費を考えたら、無料にした方が返って経営的には楽ではないか。

○別府委員長

今後検討させていただく。

4. その他

(1) 再編までのスケジュール

○事務局より説明

赤岡地区・吉川地区の新たな運行予定経路については、近日中に現在の運行事業者と事務局で当該経路上の現場確認を実施し、次の会議で報告させていただく。その会議において計画の最終的な承認をお諮りする。それ以外についてスケジュールの変更はない。

(2) 香南市の運転免許返納者数の推移

○事務局より説明

※前回の会議で吉田委員から提案のあった運転免許返納者数の推移について情報共有

○別府委員長

その他何かご意見ご質問、この会議で共有しておきたいことはございませんか。

○吉田委員

市営バスを利用したことのない委員さんは1度市営バスに乗ってみませんか。市営バスに乗っていない者が毎回集まって話をしてもしかたがない部分もある。

市役所内に市営バスで通勤している人はいるのか。

→事務局より回答

把握できていない。

○吉田委員

利用できない人もいると思うが、市役所の職員から使えるなら使いましょうと副市長から訓示のときにでもぜひお願いしたい。

5. 閉会